

自宅脇にキャンプ場

田んぼや山林が広がるいすみ市下布施に住む夫婦が、自宅脇にキャンプ場を手作りした。主に都市部の家族連れをターゲットにし、自然あふれる広々としたスペースで気兼ねなく、子どもたちが思い切り遊び回ってほしいと1日1組限定。5月5日にオープンを予定する。

いすみの夫婦が手作り

ファミリーキャンプ場 と夫の清尚さん(69)。自「やまぼろし」を作った 宅を含め約3千坪の敷地のは、日置恵子さん(72) があり、主に家庭用に農



自宅脇にキャンプ場を手作りした日置夫妻。いすみ市下布施

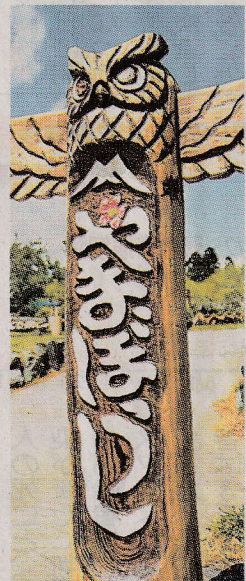
こどもの日オープン 思い切り遊び回って



キャンプファイアやバーベキューができるスペース

作物や果樹を栽培している場所を活用した。ブランコや滑り台といった遊具、キャンプファイアやバーベキューができるスペース、子どもたちが思い切り駆け回れる広場を整備。ドラム缶風

物や果樹を栽培している場所を活用した。ブランコや滑り台といった遊具、キャンプファイアやバーベキューができるスペース、子どもたちが思い切り駆け回れる広場を整備。ドラム缶風



ヤマボロシや案内キャンプ場の「いすみまきり」のファブリン

呂に入ることができ、家族で楽しめるような設備を用意した。風呂付きの休憩・宿泊建物もある。食事やテントなどは基本的に利用者が用意する。手作り感あふれる素朴なキャンプ場。青い空、スギ林を抜ける風、木陰に囲まれた空気など、普段の生活で得られないものを感じてもらえればうれしい」と恵子さんは話す。

恵子さんは当初、事務所だった建物が空いたためリフォームして民泊施設を考えたが、各所に相談する中で制約の少ないキャンプ場に変更。近隣にはオートキャンプ場が多く、1日1組限定の「プライベート・キャンプ場」にして差別化を図った。

コロナ禍で子どもたちが大きな声を出して遊べる場所がなくなっていると聞き、キャンプ場が子どもの思い出作りの場になればと願い、オープンを「こどもの日」に決めた。

ベンチや遊具はキットを購入するなどして清尚さんが組み立てた。恵子さんは「いろいろやあずまやも整備できた。やりたことはまだまだあるので少しずつ増やしていきたい」。夫婦でのんびりとキャンプ場を作っていく。